

空間構成と民族芸術からみた福建地方の伝統的商家住宅の特性に関する研究

THE CHARACTER OF TRADITIONAL MERCHANT COURTYARDS IN FUJIAN DISTRICT FROM THE VIEWPOINT OF SPACE CONSTITUTION AND ETHNIC ARTS

山之内 誠 デザイン学部環境・建築デザイン学科 准教授
 黄 國賓 大学院芸術工学研究科 助手
 王 曄 江南大学 設計学院環境芸術設計系 副教授
 今村 文彦 デザイン学部ビジュアルデザイン学科 教授

Makoto YAMANOUCHI Department of Environmental Design, School of Design, Associate Professor
 Kuo-pin HUANG Graduate School of Arts and Design, Assistant
 Ye WANG Division of Architecture and Environmental Art Design, School of Design, Jiangnan University, Associate Professor
 Fumihiko IMAMURA Department of Visual Design, School of Design, Professor

要旨

本調査研究は、明清時代の中国の福建省における商家住宅を対象に、建築の配置構成および吉祥彫刻を中心とした精神文化的要素の配置構成から、住居空間の構成原理を考察することを目的としている。具体的な調査地には、福建地方の民居の多様性を簡便に把握する意図のもと、閩北の武夷山市に所在する下梅古民居群と、閩南の泉州市及び南安市に所在する古民居をとりあげ、2011年8月と2012年2月の2度にわたり、現地調査を実施した。

調査の結果、以下の結論を得た。すなわち、下梅村と泉州・南安とでは、門樓の有無という建築構成上の大きな差異が存在するものの、吉祥彫刻の配置の面から考えると、下梅村の門樓が泉州・南安の下庁（門庁）に相当する役割を果たしていると考えられ、いずれも入口に吉祥彫刻による装飾を高密度に集中させる点が共通している。そしてさらに、彫刻の寓意内容においても、一般的な吉祥祈願や品格の表現、さらには個人的な願望に至るまで、同様のモチーフが取り入れられていることがわかった。これらの事実は、両地域が建築形式の相違を超えて、一定の精神文化を共有していることを意味していると考えられる。

Summary

The main purpose of this research is considering the architectural character of traditional merchant courtyards in Fujian(福建) district, especially from the viewpoint of space constitution and various ethnic carvings which stand for all kinds of auspiciousness. We chose the traditional merchant courtyards as the research fields in Xiamei(下梅), Wuyishan(武夷山) City and in Quanzhou(泉州) City and Nanan(南安) City, and made twice researches in August 2011 and February 2012.

Through those researches, we got the following results:

In architectural constitution, it is obvious difference between Xiamei and Quanzhou/Nanan whether the storied gate(門樓) exists or not. But in auspicious carvings constitution, both areas seems to have almost the same character because the gate hall(下庁 / 門庁) in Quanzhou/Nanan plays the same role with the storied gate in Xiamei. And the most of the auspicious carvings are gathered in the storied gate and the gate hall. In addition, those auspicious carvings in both areas resemble each other in the allegorical meanings. This fact means that these areas have common spiritual culture.

1) 目的

本研究は、明清時代の中国の福建省における商家住宅を対象に、建築の配置構成および吉祥彫刻を中心とした精神的要素の配置構成から、住居空間の構成原理を考察すること目的としている。我々は2005年から2010年にかけて、山西省の伝統的商家住宅群において同様の調査研究を行い、四合院民居の空間構成を建築の配置構成からだけでなく、寓意性に富んだ建築彫刻や風水装置の内容・配置の面からも考察したが*1)、本研究では、調査対象地を福建地方に拡げ、より広域的視野に立ち、漢民族の民居を精神文化から捉えなおす視座を得ることをめざしている。福建の民居については、近年平面構成による分類・分析等は研究成果がまとめられているが*2)、民族芸術に着目した研究は未だ十分になされていない。

2) 調査対象地・福建地方について

本研究の対象とする福建地方は、明清時代に交易品のなかで枢要な位置を占めた茶葉の最大の生産地であり、山西商人をはじめ各地の商人が長期滞在したため、文化の結節点として重要な位置を占めたと考えられる。このため、合院建築の多様性を華北(山西省)と対比しつつ広域的に把握する手掛かりとして、福建地方を対象とすることにした。

具体的な調査地には、福建地方の民居の多様性を簡便に把握する意図のもと、閩北の武夷山市に所在する下梅古民居群と、閩南の泉州市及び南安市に所在する古民居をとりあげた。下梅は晋商が築いた長大な茶葉の交易ルートの起点として著名で、清代を通じて茶葉取引を牛耳った鄒氏の邸宅(鄒氏大夫第)等が残る。また泉州は南宋以降、国際貿易都市として繁栄し、奥行方向だけでなく庁堂の両脇に房屋を発達させた特徴的な民居形式がみられる。



図1) 福建省の位置(左) / 図2) 福建地方の民居分布と今回の調査地(右)。福建地方は図の6区域で民居形式が異なる*3)。

3) 調査日程・メンバー・調査方法

第1回調査(閩北) : 2011年8月23-24日実施

・調査メンバー: 山之内誠/黄國賓/大田尚作/今村文彦 / 曾和英子/王曄(今村・曾和・王: 研究協力者)

第2回調査(閩南) : 2012年2月3-4日実施

・調査メンバー: 山之内誠/黄國賓/今村文彦/曾和英子 / 王曄(今村・曾和・王: 研究協力者)

なお、調査にあたっては、主として基本的な建築構成と吉祥彫刻の配置と種類を確認し、写真による記録を行い、また可能な場所では適宜住人への聞き取りを行った。

4) 武夷山市下梅村の民居の特徴

閩北では、下梅村内の鄒氏大夫第、参軍第、閩秀楼、水別業(全て乾隆年間(1736-95)建立)を調査し、さらに同市城村の民居(百歳翁祠、崇福庵)を視察した。調査の結果、吉祥彫刻と建築構成との関係について、これらの民居に共通して確認できた特徴は以下の通りである。

- (1) 各民居は奥行が三〜四進の合院で構成され、入口正面に門楼と呼ばれる磚と磚彫刻で構成された装飾性豊かな壁を配置する。規模が大きな民居(鄒氏大夫第、閩秀楼、百歳翁祠)では、門楼の前面にさらに門庁と呼ばれる簡素な木造の前室を配置する。
- (2) 門楼は様々な吉祥彫刻で飾られるが、それ以外(大庁・后庁等)にはほとんど寓意性豊かな装飾はしない。



写真1) 鄒氏大夫第門庁(左) / 写真2) 同・門庁から見た門楼(右)

以上の特徴を示す一例として、以下では参軍第を紹介する。参軍第は清代乾隆年間(1736-95)に方氏が建立した邸宅で、下梅村北街に所在する。門庁は無く、正面入口から順

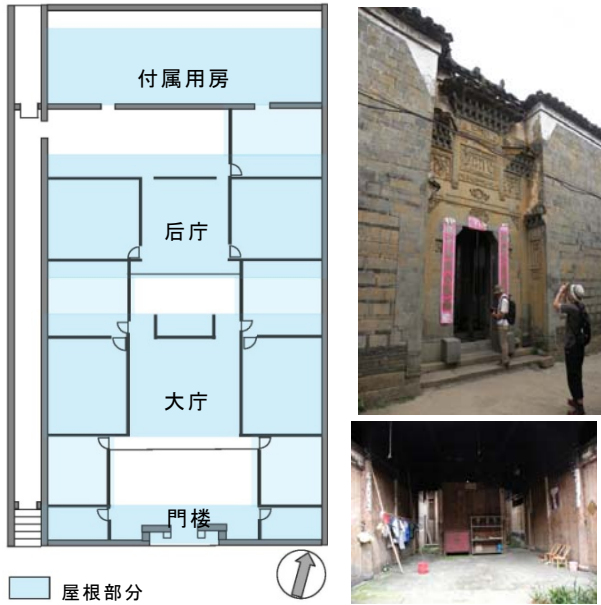


図 3)参軍第平面図(左) /写真 3)参軍第・門楼の概観(右上)
/写真 4)参軍第・門楼から見た大庁(右下)

に、門楼、大庁、后庁、付属用房が縦一列に並ぶ三進構成で、大庁の両脇が正房、后庁両脇が厨房等にあてられている。大庁をはじめ合院内部は簡素で、ほとんど寓意性のある装飾を施さない。一方、街路に面した門楼に集中的に吉祥彫刻が施され、その詳細は次のようである。

上部中央の装飾は、最上部が天下泰平を意味する「麟鳳呈祥」、2段目にはすぐに成功を手にするを意味する「馬到成功」、3段目の中央には吉祥全般を表す「福禄寿三星」、その両脇には竜生九子の一つで火災を防ぐ「螭吻」、それらを囲む梅と鳥（喜鵲）は喜びを表す「喜上眉梢」となっている。これらの左右には対になった彫刻が配置され



写真 5)参軍第・門楼上部中央レリーフ



写真 6)同・上部左側レリーフ /写真 7)同・上部右側レリーフ
ており、中心の主題は、左側が進財獲利を意味する「漁翁得利」、右側が芭蕉を摘む農夫と福を表す佛手柑とで「招福」、主題横の花瓶は「四季平安」、また主題の上下には品格を表す「四芸集雅」や「菊花」、外周に魔除けの「龍」が配置されている。したがって、門楼一極に集められた吉祥彫刻には、社会平和への願いから一般的な吉祥祈願や品格の表現、さらには個人的な願望に至るまで、多様内容が含まれることがわかる。このようなモチーフの題材や配置構成は、下梅村の他事例においても非常に類似していた。

5) 泉州・南安の民居の特徴

泉州及び南安のエリアでは、后城蔡氏宅（泉州市鯉城区后城、1904年）、蔡資深民居（南安市官橋鎮漳里村、19C中後期）、中憲第（南安市石井鎮延平東路、18C）を調査した。その結果、吉祥彫刻と建築構成との関係について、これらの民居に共通して確認できた特徴は以下の通り。

- (1) 各民居は一～三進の奥行の合院で構成され、下庁（門庁）正面入口中央付近の壁面を、重点的に磚彫刻のレリーフで飾る。下庁の彫刻は正面入口両脇の壁面と、その横の側壁に重点的に配置される。
- (2) 合院内部には吉祥彫刻は比較的少なく、庁堂（一進の頂庁、二進以上の大庁・中庁・后庁等）の建具の組子とその上下の飾り板に見られる程度である。
- (3) 下庁（門庁）のレリーフの寓意内容を概観すると、長寿（桃、寿石、靈芝等）、多子（石榴等）、品格（四君子、四芸集雅、博古図等）、喜び（喜上眉梢等）、官職祈願（加冠進禄等）などが多くみられ、閩北における門楼と良く似ていると思われた。また、庁堂の建具の組子には、福や長寿を表すもの（万字、寿字等）や有財有福を表すもの（銭紋）が用いられ、それらの上下の飾り板には、品格を表すもの（博古図、龍等）

が多く用いられていた。

なお、下庁（門庁）や庁堂の軒組物にも木彫が施されることがあるが、今回調査した中では后城蔡氏宅以外にはほとんど見られず、あまり一般的ではないように思われた。また、上記(1)(2)の位置から、閩南特有の中軸線上から両側へと庁堂脇に房屋を連ねて拡張する構成は、吉祥彫刻の配置とはあまり関わりがないこともわかった。

6) まとめ

閩北および閩南の古民居を概観して吉祥彫刻の概要を分析・考察した結果、以下の結論を得た。

下梅村と泉州・南安とでは、門樓の有無という建築構成上の大きな差異が存在し、このことにより民居の外観には大きな相違が感じられるが、吉祥彫刻の配置の面から考えると、下梅村の門樓が泉州・南安の下庁（門庁）に相当する役割を果たしていると考えられ、いずれも入口に吉祥彫刻による装飾を高密度に集中させる点が共通している。そしてさらに、彫刻の寓意内容においても、一般的な吉祥祈願や品格の表現、さらには個人的な願望に至るまで、同様のモチーフが取り入れられていることが見えてきた。この事実は、山西省の事例とは根本的に異なり、両地域が建築形式の相違を超えて、一定の精神文化を共有していることを意味している*4)。より確かな論証のためには、時間をかけ閩北の門樓や閩南の下庁（門庁）の壁面構成を詳細に記録し、もっと精緻な比較を行う必要があるが、ひとまず上記の仮説を得たことを、本研究調査の成果と位置付けたい。



写真 8) 中憲第中庁の建具彫刻上部 (左)。組子の銭紋が豊かさ (=財) を象徴し、上部飾り板の博古図は知識や品格を表す。／写真 9) 中憲第中庁の建具 (右)。組子は周囲に卍字を巡らし、柿の図柄と合わせて「万事如意」や「萬世萬代」を表す。

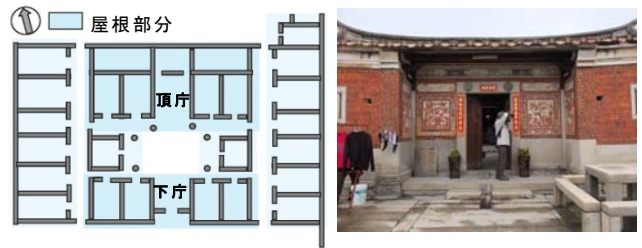


図 4) 蔡資深民居東側中央部の合院 (1867 年建立) 平面図 (左上) / 写真 10) 同・下庁入口 (右上) / 写真 11) 同・下庁入口東側の壁面レリーフ (右上)。中央は梅、喜鵲、蘭、寿石、靈芝、竹により飾られ、喜上眉梢や四君子などを表す。その周囲は四隅に長寿を表す蝶、上部に多子多産を表す葡萄と鼠、下部に品格を示す蘭、左右に四芸集雅を表す棋盤と琴が配置されている。四君子と四芸集雅は、入口西側のもう一枚のレリーフと対をなしている。

註

- 1) 山之内誠編著『建築空間構成と民族芸術からみた中国山西商人の伝統的住居の特性に関する研究』平成 20-22 年度科研基盤 B (海外) 報告書、神戸芸術工科大学、2011.3
- 2) 戴志堅『福建民居』(中国民居建築叢書、中国建築工業出版社、2009) では、福建地方の民居を閩南・莆仙・閩東・閩北・客家の 6 地区に分け、平面配置形態の類型化を網羅的に行い、各地区の特色や相違をまとめている。
- 3) 上記 2) 参照。
- 4) 上記 1) 第 4 章参照。山西の王家大院では、彫刻の質・量とも前院よりも後院が勝り、主題にも違いが窺えた。

図版出典

図 1)~4) 及び写真 1)~11) すべて山之内が作成・撮影。